

### HMEPCCに参加して

HMEP 実習として、2021年6月から約1ヶ月間、静岡医療センターで実習をさせていただきました。救急科での実習予定でしたが、発熱や呼吸器症状のある患者さんは診ることができず、例年より経験できる症例が少ないとのことで、救急科だけでなく並行して内科も回らせていただきました。



救急科では、実際に救急車で来院した患者さんに対して、研修医の先生と初期対応に参加し、問診や身体所見を実際に取りました。最初は何もできず、あたふたしてしまいましたが、研修医の先生や指導医の先生からフィードバックを受けることで理解を深めることができました。

救急車が到着する前に主訴から鑑別疾患を考え、criticalな疾患とcommonな疾患を想起し、問診や身体診察から緊急性の高い疾患を除外し、検査や治療を考えるというように系統的に実践的に学ぶことができました。

実際に自分で問診や身体診察を行ってみると、患者さんやその家族の方に問診をしても正確な情報を得るのが難しい時があること、患者さんの話の中から大切なことを聞き出す難しさ、患者さんに説明することの難しさ、時間をなるべくかけずに所見を取るものの難しさなどを感じました。

救急科だけでなく、内科も並行して回らせていただいたので、実際に自分が救急で診た患者さんを内科の担当患者さんとして受け持つことがありました。大学の実習では、各科ごとにすでに診断がついている患者さんを受け持つことが多かったので、患者さんが救急車で搬送されてから入院し、診断・治療を考えながら、退院するまで受け持つことができ、幅広い臨床能力を身につけることができました。

救急科担当医師のレクチャーでは、実際の救急患者さんを例に、主訴から鑑別疾患を考え、検査・治療というように系統的に学ぶことができ、とても勉強になりました。最初は間違えることに抵抗がありましたが、間違えた分だけフィードバックを頂けることに気づき、疑問に思ったことなどもすぐに質問するようにしました。



病棟から見える富士山です



周辺を散策すると富士山の湧水 柿田川公園があります

内科では担当患者さんを割り当てていただきました。大学の実習では、病室に入ることや患者さんに接する実習はできなかったのですが、実際に毎日病室に行き、身体所見を取り、患者さんとお話をするというのは初めての経験でした。

身体診察の仕方、カルテの書き方など、今まであやふやなまま行っていたことも、基本的なことから教えていただきました。内科での実習を通して、患者さんの各プロブレムに対する対応、バイタルサインや心電図の評価、抗菌薬や輸液の選択や投与期間、食事や入浴に関すること、他科との連携、退院後の生活など主治医として患者さんに関わるということがどういうことか、そして先生方がいかに幅広い知識と熱量をもって仕事にあたっているかを学ぶことができました。私は、最初の頃はまだ自分は学生だという認識が強く、患者さんを担当しているという自覚が足りなかったと思います。各プロブレムに対して、「何の薬をどのくらいの期間だす？これはどうしたら良いと思う？退院後はどうするの？」と聞かれても何も答えることができませんでした。それからは、患者さんの病気だけでなく、生活背景なども含めて全人的に診るよう心がけました。初めて学ぶことばかりで分からないことも多かったので、指導医の先生方はとても優しく、気軽に質問することができました。質問に対していつも丁寧に教えてくださり、理解を深めることができました。患者さんの治療に対して、私なりに調べて先生に提案したことを受け入れてくださった時は嬉しかったです。また、朝一番からベッドサイドに行き、こまめに足を運び患者さんとお話をする中で、信頼関係を築くことができ、患者さんが入院生活で困っていることや不安なことなどを話して頂きました。最終日に挨拶に伺った際、「あなたなら寄り添える良いお医者さんになれるよ」とおっしゃっていただき、とても勇気づけられました。

高知大学の HMEP プログラムは初年度でしたので、参加するまでは分からないことも多かったので、振り返ってみると、1ヶ月という短い時間でしたが、密度が濃く、多くのことを学びました。もっと長い期間参加したかったです。ここで実習を行えば、かなり力がつくと思うので、これから参加する皆さんは、できるだけ長く実習を行うことをお勧めします。私の英語力は高くはありませんが、友達や先生方に助けて頂き、なんとか実習を終えました。指導してくださった先生方は、臨床留学という大きな目標を持ち、幅広い知識と情熱を持っていらっしゃいました。そのような先生方とお話する機会はとても貴重で、私自身のモチベーションにも繋がりました。

COVID-19 の感染拡大が続く中、実習調整して下さりありがとうございました。このような素晴らしい機会に恵まれ、お世話になった全ての皆様に感謝申し上げます。